

(別添3)

## 【加賀市】 校務DX計画

加賀市では、児童生徒及び教職員にGoogleアカウントを付与し、児童生徒と同じ学習者用端末だけではなく、校務用の端末においても、Googleアカウントを活用した校務や授業ができる環境を整え、以下のような校務DXへの取り組みを行っている。

### ① ICT支援員の配置

下記学校の要望に応じて、原則月2回を上限に学校の要望に応じてICT支援員を終日学校に派遣を行い、校務や教材づくり、授業におけるICT機器の導入における補助を行い、端末に利活用に資することで、教職員の負担軽減を図っている。

### ② AIドリルの活用

AIドリルを全小中学校の児童生徒が使用できるようにしており、授業内・帯タイム・家庭学習で活用している。授業内や帯タイムでテスト機能を使って理解度を把握したり、その理解度に応じて自動出題されるドリルに家庭学習で取り組んだりすることで、児童生徒一人ひとりの学力に合った学習を積み上げることができるよう活用を進めている。

### ③ ペーパーレスの推進

教育委員会から各学校への通知や案内、校長研修会等で使用する資料のデータ化することで教育委員会が主導で紙資料の削減を図った。また、市内学校間での連絡や成績処理においてもFAXでの連絡は原則廃止とし、校務支援システムを活用することでペーパーレスを進めている。

### ④ 校務支援システムのクラウド化

③でも述べている通り本システムを活用して、保険、学籍や成績管理等の様々な校務に役立っている。ただ現状として、石川県では校務支援システムは県が主導となって導入しており、石川県全体がオンプレミスのシステムを運用している。令和6年に発生した能登半島地震も記憶に新しいが、サーバーを物理的に設置していることにより、天災による影響も今後は懸念されるため、石川県に対して次回の校務支援システム更新時には、オンプレミスからクラウドに移行を行えるよう働きかけを行っていく。

今後の加賀市がより校務DXに移行する際の課題としては、現在策定途中である教育情報セキュリティポリシーが令和6年度中に完成予定のため、そのポリシーに則って業務を運用していくこと、押印が慣例となっていて廃止ができていない紙媒体で作業をしている業務の見直しを推進する。

## 1 加賀市の課題

加賀市が抱える課題として、出勤簿やアンケート、会議資料などの紙による報告書作成が多いことや、そのデータの入力を職員が手入力しているものが多く、既存データとのデータ連携ができていないことに加え、ICT機器（NASやサーバー）の状況について把握ができていなかったため、クラウドやICTを活用した校務の情報化・効率化・働き方改革を推進するための具体策などを検討するために教育委員会における学校DX推進コーディネーターを設置し、以下の内容について具体策の提示をいただいた。

### ① 校務のICT化のための具体策の提示

学校現場や教育現場にICTを活用した働き方改革の専門家の意見を取り入れることで、民間企業では当然のように進めているICTでの業務効率化や働き方改革に資する具体策を提示してもらうことで、市内各学校のICT化を推進する。

### ② 教育委員会と学校間の業務効率化・ICT化、データ連携の具体策の提示

市内学校間や教育委員会とのデータの連携や情報共有を進めるうえでの効果的なクラウド活用についての助言をもらう。

## 2 取り組んだ内容

1学期は主に学校にて、ICTに関する学校の現状課題や、校務支援システムなどデジタルツールの活用に関するヒアリングを実施した。また、併せて各学校のネットワーク環境の機器調査や、ファイルサーバーの運用についてもヒアリングを行った。

2学期から学校に時間割やスケジュールのDX化のために、Googleカレンダーを活用した時間割表を作成するスクリプトや、Googleカレンダーをデータベースで出力するエクセルのマクロの作成を実施し、学校現場における校務DX化へ寄与した。